

第23号

有機健康 つうしん

遠赤青汁通信 (H24.8.1 発行)

愛媛から中国、台湾そして韓国へ。世界の市場に遠赤青汁は挑戦を続けます。



遠赤青汁株式会社

〒791-0398 愛媛県東温市則之内甲2225-1
TEL フリーダイヤル 0120-148-162
ホームページ http://www.enseki.com

これからお客様と共に。 遠赤青汁は二十年を迎えます。

遠赤青汁は平成二十四年十月、創立二十周年を迎えます。皆様のおかげと感謝しております。

創業当初は、私と妻令恵、工場長越智の三人。商品も「遠赤青汁V1」のみ、作るのも売るのも、すべて自分たちだけのスタートでした。

まずなぜ青汁に取り組んだかということですが、私の父の話からさせていただきます。父は病弱で結核でしたが、乾布摩擦と青汁で健康を取りもどし、九十歳まで長生きをしました。その間に桜「陽光ようこう」を開発しました。

父は学校の先生をしていましたが、

戦争で教え子が半分以上帰って来ませんでした。これは父の人生を変え、教え子の供養のため新品種の桜の研究を始め、二十五年かけて「陽光」を開発しました。桜の寄付を世界中に毎年三千本を三千年間続けています。私が小学校五年生の時に父が言った言葉が「私の人生、地位と名誉と金儲けはなし」でした。

私は小学生から農業を手伝っていたのですが、十八歳のとき過労で倒れ、父と同じ結核になり抗生物質で一時的に善されるかに見えましたが、副作用が激しく、心臓がはりさけそうになったり、頭が割れる思いがしました。これ以上続けたら、どうなるんだろう。もう治療は続けられないと諦めていました。

ある日、父の本棚にあった京都大学の先生が書いた本を読みました。その本を読むと身体を治すには、やはり血をきれいにしないといけないということが書かれていました。それから、すりつぶしたよもぎやよはこべを必死になつてかすごと食べました。うどん鉢い

っぱいの量を一日三杯食べて、ごはんが食べられないくらいでした。三ヶ月くらい続けると痛みが引き、体調が改善されてきたのです。自然はすごいなと思いました。薬に頼るだけではなく、食事が大切なのではと気が付きました。自身の体験もあつたのですが、さらに衝撃的な事件がありました。若い女

の子が肌の悩みで自殺したという事件を新聞で見て、「これはいかん。」と思いました。野菜をしつかり摂る、しかも簡単に。青汁を粒にしようと思つたのはこうした出来事からです。まったくの素人がやろうというのですから難しい。三年間京都の機械メーカーに通い、あきらめかけていて、今日だめだったらやめようと思つていた最後の日に、ようやく無添加の粒に加工できました。今では錠剤は丸いものが普通に売られていますが、当時は三角形じゃないといけない等、法制上の規制が多かつたのを覚えています。出来上がった青汁粒を皆様に知っていたために、愛媛県の物産展に参加して初めて百貨店で販売しました。それがきっかけとなり、その後全国の百貨店から声をかけていただき、多くの方に青汁をお届けすることが出来るようになりました。

また父の死後、平和へ想いを込め「陽光」を国内だけでなく世界中に届けています。桜の寄付は、私の一生の仕事です。父の想いを受け、私の人生も「地位と名誉と金儲けはなし」皆様のお役に立てることを願つてやみません。今後

も厳しくご指導くださいます様お願い致します。

代表取締役 高岡照海



創業時は社屋のすぐ裏にケール畑がありました。



世界中で花咲け！
平和の願いとともに



リトアニアでも
満開の陽光

ヨーロッパの北東部、リトアニアでは、杉原千畝記念館の近くの丘に陽光が植えられています。

植樹はもう八年前。桜の木も大きく成長し、花をたくさん咲かせています。

紫電改とともに
鎮魂の桜

陽光の生みの親、故高岡正明氏の教え子、近藤若重さんが愛媛県愛南町の紫電改記念館の横に植えた鎮魂の桜。



近藤さんとひ孫さん

メキシコから
桜の便り

メキシコの日本人会「日墨協会」の皆さんと植樹させていただいた陽光がようやく花を咲かせてくれました。もう三年前になりますね。皆様の平和への想い、陽光と共につながりていただきたいと思います。



今年も満開の陽光を見に行つて来たよと写真を送っていただきました。陽光は、戦争で帰ってこなかった教え子の鎮魂のために、正明氏がつた桜です。近藤さんは、戦時中に戦闘機の紫電改の整備士だった事もあり、戦友とともに想いをこめてこの地に陽光を植樹されました。

この写真の約1ヶ月後、近藤さんはご逝去されました。天国で正明氏やご友人と共に楽しく、陽光の話をしつづけていられることを祈ります。

農地再生に挑む

五月のゴールデンウィーク明けから、有機にんにくの圃場は忙しさを増してきます。

まずは、「にんにくの芽」。葉っぱの間から、すーっと芽が伸びてきます。圃場の中を歩きながら、葉の間から見つけて一本一本摘み取っていきます。うつむいて歩く姿は、さながら宝さがしの様です。

にんにくの芽を出荷し始めて、三年が経ちます。袋のデザインから手さぐりで、これで売れるのかと心配しました。今は大手生協や、首都圏のスーパースタンドで販売していただいています。そのやわらかさから人気も定着して、毎年出荷量も増えてきました。ありがたいことです。



にんにくは葉を削ってからマルチをはがして、ひとつひとつ土から抜いて収穫します。収穫の時はお手伝いの方も大勢になります。



「今年もきれいなにんにくが出来たよ！」圃場のリーダー、木下も満足そう。笑顔がいいですね。



集められたにんにくは収穫した後、軸のところで根っこをはさみでひとつひとつカットし、乾燥していきます。

「農地再生に挑む」では、放置された農地を再生し、有機圃場として生まれ変わる様子をシリーズとしてお伝えしています。

野菜はどうしても旬の時期が限られてくるので、収穫、出荷と作業が集中します。収穫は休みなく行われていきます。

農場の忙しさは半端でなく、日曜日も通しての収穫が続きます。毎日のように伸びてくる芽には、「日曜日だから」という言い訳は無理ですね。ピーク時にも協力して収穫を行っています。

にんにくの芽の摘み取りが終わるとすぐに玉の収穫が待っています。この時期は休みなく圃場を駆け巡ります。

今年も天候にも恵まれ、収穫の時期に雨が少なかったため、一気に収穫を終えることができました。収穫してから、乾燥前ににんにくの根を切る作業が続きます。連日の収穫で疲れもたまってきたため、少しでも早く作業をやり遂げるために、工場からもメンバーを総動員して手伝いました。



工場から助っ人にきたものの、慣れない作業のため、開始2時間もしないうちに手に豆ができてしまったそうです。ちょっと痛々しいです。うず高く積まれたキャリー全部、切り終えていかなくてはなりません。地道な作業が続きます。

根はまだやわらかいうちにはさみで一つ一つ切り取っていきます。この時に、状態を確認し、サイズの選別を行っています。

玉が割れて見た目の悪いものは、この時点で振り分けられています。選ばれた美しいにんにくが「有機にんにく」として販売されるのです。心をこめてお客様にお届けしています。

木下さんの

ゆづきの話

「は強いっ？」

にんにくの収穫を見ていたら、あちらこちらに放置されているものが・・・

「これは収穫しないんですか？何がいけないんでしょう？」

木下さんが、さっとその根元を分けてくれました。

「ほら、開いても開いても玉になってなかる」

本当だ。にんにくの形になっていない。えーどうして？

にんにくの芽を収穫するときに、芽が出ていないと結局は分球しないそうです。年によって違いますが、今年はまだ少ないとのこと。

「にんにくの芽は取ってもまた芽が出てくる。その芽の先にもまた、小さいにんにくがつく。そうならんと、土の中も分球したらんよ」

なるほど。にんにくの芽が収穫できないと、玉もできないんだ。

「にんにくも、人間も同じ。女はよく働くことよ」

どうやら男性陣にハッパをかけているようです。圃場では、女性が強いようですよ（笑）



にんにくの芽の先にも、小さなにんにくが育ちます。土の中と芽の先と両方で子供を増やしていくんですね。



収穫されずに放置されていたにんにく。全然膨らみがありません。開いてみると、分球しておらずににんにくとは呼べず・・・

EVENT

遠赤青汁ではお客様とのふれあいを通じて
もっと青汁の良さを知っていただけるよう
様々なイベントを行っています。

韓国、台湾、中国、香港・・・ 遠赤青汁はアジアへ

昨年の大震災を受け、海外では
日本製品の購買が低下しています。
しかし、海外にもお肌に悩んでい
る人、本当に青汁を飲んでいただ
きたい方がたくさんいます。

三年前から再スタートした香港・
シンガポールの販売で、海外の方
にも青汁は必要とされていると実
感しました。逆風と言われる中、
韓国、台湾でも販売を開始いたし
ました。



韓国語を話せる営業平井が、お客様に青汁の良さをお伝えます。グローバルになってきました。



社長と一緒に。紹介がんばります！

韓国では香川県と愛媛県の物産
展に参加しました。韓国での販売
は初めて。韓国語が話せる社員を
連れて行ったので、言葉も通じる
し大丈夫だと思っていました。し
かし、お客様に伝えるということ
は、話せるということじゃないん
です。身振り手振りで青汁をアピ
ールしていく高岡に圧倒されたそ
うです。「言葉じゃないんよ、気
持ちはなんよ。ま、細かいところは
説明して」と、ぐいぐい引き込ん
でいきます。さすがは社長。どこ
へ行っても、想いはぶれません。

昨年10月以降に販売・出展した海外の百貨店・イベント

台湾	太平洋SOGO忠孝店 太平洋SOGO天母店 新光三越南西店 高雄漢神〈阪神百貨店〉
韓国	新世界百貨店江南店 新世界百貨店本店 新世界百貨店登浦店
中国	上海展示会
香港	香港そごう四国物産展

香港そごうでの四国物産展も今年で
三年目を迎えます。今年も四国の企業
さんと四国の良さ、特産品を紹介して
まいります。日本の中小企業のパワ
ーを集めて、より広く皆様に知って
いただけるように、頑張ります。報告は次
号で。



上海でも有機栽培の青汁は注目されています。



四国八十八箇所・八十一番札所

綾松山 洞林院 白峯寺 (しろみねじ)

香川県坂出市青海町2635



弘仁6年(815)、弘法大師が宝珠を埋め、井戸を掘ってお堂を
建立したのがはじまり。五色の峰のうち、白い峰にあることから
この名がつけられたと伝えられます。

保元の乱で敗れて讃岐に配流された崇徳上皇が葬られたのもこ
の寺で、ゆかりの場所や伝説が数多く残されています。生前の上
皇がこの地を訪ねたときのこと。ホトトギスの鳴き声に都を思い
出し、悲しみにくれます。するとホトトギスは榎の木の葉を巻い
てくわえ、声を殺して鳴いたために、それからは葉が巻くようにな
ったのだと伝えられています〈玉章(たますさ)の木〉。

愛媛県知事がやってきた！

～愛媛県知事中村時広氏本社工場視察～



事務所内に展示した商品ラインナップ。「すごくバリエーションが増えましたね」20年でここまで増えました。

今回は、地元東温市の企業訪問で、お越しいただきました。本社工場での現状の取り組み、商品の製造など見学していただきました。

残念ながら、ケールの収穫時期は過ぎていたので、実際の洗浄ラインなどは見ていただけませんでした。が、「パリッとまるごと」の製造ラインを見ていただきました。

「社長、ご無沙汰しています」愛媛県知事、中村時広氏の最初の言葉は、再会を喜ぶ声でした。

「もう二〇年ぶりになるなあ」と高岡。当時、遠赤青汁もスタートしたばかりで、これから積極的に販売を始めたいと熱く語っていた時代です。

中村氏も政治活動を始めた頃で、同じ時期にそれぞれのスタートを切った二人、思い出話から始まりました。



パリッとまるごとを試食される中村知事。その横で、熱く語る高岡。説明にも気持ちがこもります。

「これは、すいぶん香ばしいですね」焼きたてのパリッととはふくらみ、焼いた香りが部屋中に漂います。無添加で、油を使わずにせんべいにしてるのは、肌に敏感な方に食べてもらいたいからと、製造のいきさつを説明します。「商品には、想いがあるんですね」知事も、うなずきながらパクパクと召し上がっていました。

工場の見学を終えると、まずは青汁を飲んでいただきました。

「これは・・・、すいぶん飲みやすくなりましたよ。うん、飲みやすい」

当時の青汁はどうだったんだろう？そう思うくらい、飲みやすさを強調していただきました（笑）すかさず高岡も黒にんにく、いちごチップスなど、試食をどんどんすすめます。

「これは、どういうターゲットにおすめしたらいいんですか」さすがは愛媛県のトップ営業である知事。すでに売る方向を考えているようでした。



さりげなく、遠赤青汁V1SUPERGOLDを手にとって、二人で記念撮影。思わず、照れる高岡でした。

近年は、香港で四国物産展を主催し、アジアにも販路を拡大していること、国内の放射能への風評被害で、販売の難しさが出ていることなどを相談し、愛媛県にも県産品の販売を推進していただくよう、お願いしました。

「これからはアジアです。県も応援しますよ」と知事も快諾。これからも愛媛県産の青汁を世界に届けていこうと二人の話は盛り上がりしました。

「次はぜひ、農場を見に来て下さい」弊社の耕作放棄地へ取り組んだ地域再生事業は、特徴ある事業として注目されています。愛媛県の耕作放棄地は全国でも五位にランクされ、問題となっています。ぜひ、知事にも参考にしたいと高岡の想いがあります。「じゃあ、次はもっと時間をとってまいります。社長も愛媛県のために、頑張ってくださいね」と、さわやかな笑顔と共にお願いいただきました。ありがとうございました。

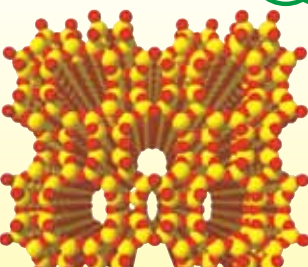
新発売



遠赤青汁V1 DX

愛媛県東温市近郊で有機栽培されたケールに、島根県出雲市産の天然ゼオライトをブレンドしました。

※分子配列のイメージ図



天然ゼオライト

+



有機ケール



〈粒タイプ〉

1250粒ビン

¥12,600

1250粒詰替

¥11,550

〈粉末タイプ〉

100g

¥3,675

ゼオライトとは？

天然ゼオライト（Zeolite）は、アルカリ土壌中のミネラルが主な成分です。1億分の1センチの穴が無数にある、スポンジのような分子構造が特徴です。その細かな穴に金属などの陽イオンを交換したり、アンモニアを吸着する働きがあることで注目され、幅広い分野で利用されています。